

えみちゃんレポート No4

2011年10月



茨城県議会議員 設楽詠美子(しだら えみこ)

住所 筑西市二本成994
電話・FAX 24-9119

朝の肌寒さ、秋の高い空、流れる雲、秋を感じられる季節となりました。県議会議員として働かせていただき10ヶ月がたとうとしております。

この間、娘を持つ母として、現場主義の議員として、保健医療の専門家として、元気なまちづくりのために精一杯で働いてまいりました。これからも地域のために働いてまいります。



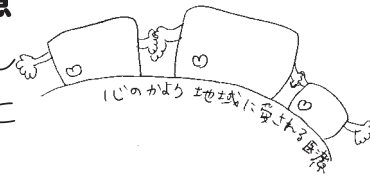
桜川市と筑西市の皆に愛される新中核病院をつくりましょう!!

先月の9月5日、「筑西・桜川地区新中核病院準備委員会（委員長 原中日本医師会長）」は、**新中核病院の建設場所と既存公立2病院のあり方**についての検討結果を取りまとめ、筑西市長及び桜川市長に対し報告書を手渡しました。

【報告書の内容】

- 新中核病院の建設場所は、「竹島地区（筑西市）」とする。
- 新中核病院の整備にあわせて、筑西市民病院は無床診療所とし、県西総合病院は120床程度の病院として存続させることが望ましい。

新中核病院は病床数300床規模で、将来的には**3次救急医療を担う拠点病院**として計画されており、県が策定している新たな**地域医療再生計画**にも位置付けられる予定となっております。



今後は、筑西・桜川両市が合意の下、医師・看護師の確保や診療科目をどうするか？など早急に解決しなければならない課題が残っております。

また、地域医療再生基金を活用するには、平成25年度までに着工することが必要です。一日も早く新中核病院の計画がすすみますよう、皆様とともに頑張っております。

お知らせ

一人でも多くの生命を救いたい!!

「新・中核病院」がめざす救急救命医療と医療連携を語りあう」

日時 **10月30日(日) PM 3時～5時(2時30分 受付開始)**

場所 **桜川市 大和ふれあいセンター(シトラス)羽田989-1**

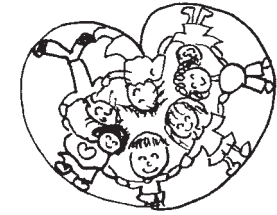
参加者 日本医師会会長 原中勝征先生 等によるフォーラムの開催
真壁医師会会長 落合聖二先生

◎多くの方々のご参加をお待ちしております。

精神障がい者へのあらゆる支援が求められています。

茨城県精神福祉連合会を7月17日に訪問し、要望やご意見を聴かせていただきました。多くの親やご家族の皆様は行政サービスの不十分さや自分達の亡き後をどうしたらよいかなど多くの悩みを持っておりました。精神疾患は、心疾患、脳血管疾患、がん、糖尿病と並ぶ5大疾病に位置づけられ、**国・県・市が連携して病気の予防と治療に力を注がなくてはなりません。**

今後、①精神障がい者が地域で理解されること、②地域ボランティアの人材の育成、③障がい者の自立支援や社会復帰、④障がい者差別禁止条例の制定、そして最後に⑤保護者制度の撤廃に向けて力を注いでいきたいと考えております。



特に、**障がい者の自立支援や社会復帰のために、「障害者自立支援基盤整備事業」**があります。県西地域では、障がい者のみなさんが地元のコシヒカリを使い米粉パンを作り、学校給食等で提供できるように頑張っています。

事業が適用され、パン作りが拡大できるよう応援しています。

家の前の雑木林が荒れ放題でゴミが捨てられ…

森林湖沼環境税って知っていますか？

茨城県では平成20年度から県民税からの年間1,000円/人と法人から、資本金に応じて2千円～80万円を集めて基金（年間約16億円）を作っています。森林と霞ヶ浦をはじめとする湖沼、河川の保全のために使っています。そして**県西地域で活用できる事業としては、主に次のような事業を行っています。**

①荒れている平地林や里山林の整備保全事業

森林所有者が管理しやすいように、県の予算で市町村が整備します。（森林所有者の自己負担はありません。）

②森林づくりや木づかい、森林環境学習の活動を行うための事業

1団体あたり、25万円の助成金制度があります。

相談を頂いた筑西市①玉戸と②森添島の里山林の整備をすることが決定しております。緑が再生できることに、喜んでおります!!



農業を応援しています!!

現在、農林水産委員会に所属して、**食の安全**や**地産地消**に力をいれております。現場の声を大切にして、よりよい農業のあり方を模索中です。

近年、これからの農業のあり方として6次産業化が推進されております。

6次産業化とは、1次産業である生産と2次産業である加工品の製造、そして3次産業化である販売・流通の1×2×3を掛けたものです。平成23年3月に6次産業化法も施行され、本県では「**食と農のチャレンジ事業など、6次産業化を支援する事業**」がはじまりました。

鳥取県は梨やスイカを使った多くの加工品を作っている先進的な県であり、委員会で視察研修に行ってきました。多くの学びがあり、県西地域でも応用できないかと、地域の女性・農業女性グループの方々に「**研修報告**」させていただき、「**6次産業化推進**」の勉強会を継続していこうということになりました。

勉強会では、すでに農産物を使ってジャムを作るなど、加工品を直売している農業グループもあれば、農業作業が忙しく、加工品を作る余裕はないという意見もありました。安定した農業経営をするためには、規格外品を捨てたり、安く売ったりしてしまうのではなく、加工品をつくり**付加価値をつける**ことが大切です。さらに、**農業と主婦業、商業、福祉、医療等との横の連携をはかることも重要です。**



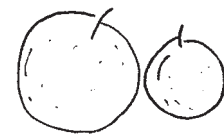
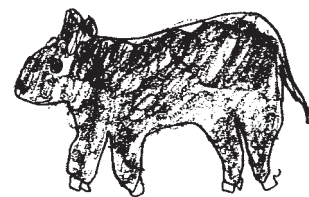
原発事故による放射性物質に関する被害対策の動き

東京電力原発事故農畜産損害賠償対策茨城県協議会は、市町村と連携して、東京電力に対し、総額約263億円請求し、66億円の仮払いがされています。

出荷制限品目については請求額の1/2が、風評被害についても1/2が支払われています。未払いの分については、10月にまとめてお支払いする予定です。

県内の畜産農家は、宮城県産の高い放射性物質が含まれる藁が、茨城県にも出荷されたことを受けて、7月19日以降、**風評被害**により子牛代・えさ代にならない程、値が下がりました。**緊急事業として1頭5万円の支援**(出荷時に返還)が9月22日よりスタートしました。畜産農家さんからの悲痛な声を聞かせていただくたびに、県や国に要望を伝え続けました。その結果、**出荷制限を受けた4県について5番目に支援を開始できました。**

県西地域の牛肉も含め、県が実施している**全頭検査の結果は、全て暫定規制値以下**です。県西地域には、100軒を超える畜産農家が一生懸命に牛を育てております。どうぞ、よろしくお願ひします!!



梨の降雹被害対策は進展しましたか?

筑西市の梨園面積の7割に及ぶ100ha超において、4月の**降雹による被害**がありました。その被害は5億円を超えると推測されます。県の農林水産部と勉強を重ね、**現場の状況を踏まえた対策は大きく3つの動き**があります。

- 1) 防災網の軽量化を図り、高齢者でも簡単に設置できるように取り組んでいます。
- 2) 地域気象情報提供システム(携帯電話に雷や雹予報が送信されます)の活用を推進を行っています。現在、全県955人の登録で、6月からは30人しか増加しておりませんので、もっと農業者に周知することが必要です。
- 3) 防災網を設置するために補助制度があります。

これから2ヶ月(10月・11月)は、以下3つの目標のために多くの現場に出かけますので皆様の声をお聞かせください。

- ①農家のあたらしい方向性としての6次産業化や農商工連携
- ②子どもたちが幸せに育つ環境づくりや女性支援
- ③障がい者の自立支援

●女性限定のタウンミーティング 開催 (要予約) 託児あり (要予約)

11月6日(日) 1時半～

県西生涯学習センター和室 (0296-24-1151)

●12月8日午後2時ころより、本会議での一般質問を予定しております。

バスを準備させていただきますので、傍聴希望の方はご連絡お待ちしております。

Tel&Fax : 0296-24-9119 Email:eshidara@gikai.pref.ibaraki.jp

携帯電話 090-3247-1030 HP:http://www9.plala.or.jp/eshidara/

意見交換会や県政報告会を随時受け付けております。みなさまの声を聞かせてください。議員活動に活かしてまいります。

娘・桃の絵です。